科目名	ビジネスマナーB				
科目名(英)	Business manner				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	津嘉山　佳子
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	全学科対象・1学年				
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○	サービス接遇検定3級に合格することができる
○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。
	○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。
	○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する
			○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。

テキスト・教材 参考図書

・公益財団法人　全国経理教育協会　　社会人常識マナー検定テキスト　2・3級
・早稲田教育出版　　サービス接遇検定3級　実問題集第39回～43回

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	検定試験について　受験級の選択・検定結果について	
2	サービス接遇検定対策①　演習および解説　第39回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
3	サービス接遇検定対策②　演習および解説　第40回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
4	サービス接遇検定対策③　演習および解説　第41回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
5	サービス接遇検定対策④　演習および解説　第42回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
6	サービス接遇検定対策⑤　模擬試験	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
7	サービス接遇検定対策⑥　演習および解説　第43回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
8	サービス接遇検定対策⑦　演習および解説	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
9	来客応対1　接遇の意義と重要性を理解する　接遇の心構え	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	来客応対2　来客応対の流れ　来客応対の基本用語	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	来客応対3　名刺の受け方・渡し方・取扱い	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	来客応対4　ロールプレイング　テスト	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	電話応対1　電話の特性　電話話法のポイント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	電話応対2　電話のかけ方・受け方　演習プリント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める	定期試験に備えて、復習をしておくこと

評価方法

(1)授業の中で小テストを2回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				75%
ロールプレイングテスト	○	○				15%
態度・意欲・出席				○	○	10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	3DCAD ＩA				
科目名(英)	3DCAD ＩA				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	木下　敦子
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科1年				
授業概要	プロダクトデザイナー・デザインエンジニアを目指す者として、人を魅了する発想力、造形力、技術力を培うとともに、モデルやパネルを通してそれらをアウトプットしプレゼンテーションする技術を養う。また、スケジュール管理を行いながら進級制作として完成させる。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				市場調査を基にコンセプトを決定することができる
	○				コンセプトに沿った詳細設計をスケジュール通りに進めることができる
	○	○			スケジュール通りに3次元モデリングデータの作成を進めることができる
	○	○			3次元モデリングデータをもとに、プレゼンテーション資料・パネルを制作することができる

テキスト・教材 参考図書

・3DEXPERIENCE　問題集
(プログレステクノロジーズ)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	作品テーマの決定	作品テーマを決めるための背景や内容を詰めて置くこと。
2	作品テーマの決定	作品テーマを決めるための背景や内容を詰めて置くこと。
3	スケジュールの策定	テーマを決めたことから最終発表には完成するようスケジュールを考えておくこと。
4	スケジュールの策定	テーマを決めたことから最終発表には完成するようスケジュールを考えておくこと。
5	市場調査及びコンセプト・アイデアスケッチ	市場調査を行い、作品のポジショニングマップをつくりコンセプトを決定 コンセプトを基にアイデアスケッチを作成すること
6	市場調査及びコンセプト・アイデアスケッチ	市場調査を行い、作品のポジショニングマップをつくりコンセプトを決定 コンセプトを基にアイデアスケッチを作成すること
7	アイデアスケッチを基に詳細設計を実施	アイデアスケッチをもっと具体化するための情報を集め、詳細設計作業に移行できるよう準備すること。
8	アイデアスケッチを基に詳細設計を実施	アイデアスケッチをもっと具体化するための情報を集め、詳細設計作業に移行できるよう準備すること。
9	中間発表　※スケジュールも含め発表	中間発表内容を含め今後の取り組みに移行しやすいよう取り組む
10	中間発表　※スケジュールも含め発表	中間発表内容を含め今後の取り組みに移行しやすいよう取り組む
11	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
12	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
13	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
14	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
15	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
16	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
17	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
18	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
19	中間発表　※スケジュールも含め発表	中間発表内容を含め今後の取り組みに移行しやすいよう取り組む
20	中間発表　※スケジュールも含め発表	中間発表内容を含め今後の取り組みに移行しやすいよう取り組む
21	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
22	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
23	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
24	3次元モデリング実施・個別進捗状況報告	3次元モデリングデータの管理及び最終形状を意識した作品制作を行うこと。
25	パネル及びプレゼンテーション資料作成	完成したモデリングデータをもとにパネル及びプレゼンテーション資料の作成が進むよう材料の準備を行うこと。
26	パネル及びプレゼンテーション資料作成	完成したモデリングデータをもとにパネル及びプレゼンテーション資料の作成が進むよう材料の準備を行うこと。
27	パネル及びプレゼンテーション資料作成	完成したモデリングデータをもとにパネル及びプレゼンテーション資料の作成が進むよう材料の準備を行うこと。
28	パネル及びプレゼンテーション資料作成	完成したモデリングデータをもとにパネル及びプレゼンテーション資料の作成が進むよう材料の準備を行うこと。
29	最終発表	最終発表後の課題点については修正すること。
30	最終発表	最終発表後の課題点については修正すること。

評価方法

(1)作品(課題作品・プレゼンテーション資料)の完成度　(2)プレゼンテーションスキル　(3)スケジュール管理
上記3項目より評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
作品		○	○			60%
プレゼンテーション		○	○			20%
スケジュール管理		○		○		20%

履修上の注意

科目名	3DCAD ＩB				
科目名(英)	CATIA ＩA				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	稲吉　貴博
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科1年				
授業概要	CATIA 3DEXPERIENCEの操作の概念を習得。 実際の設計現場におけるCADの使用方法や陥りやすいミスについて説明し現場で通用する スキルを身につける。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				3DEXPERIENCEで用いられる専門用語を説明できる
	○	○			CATIA　3DEXPERIENCEを問題なく操作できる
	○	○			作品の設計変更に対応して再制作できる
	○	○			加工工程を意識したパートデザインを作成できる
	○	○			基準(組み合わせ・加工)に沿ったアセンブリーデザインを作成できる

テキスト・教材 参考図書: ・3DEXPERIENCE　問題集
(プログレステクノロジーズ)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	3DEXPERIENCEプラットフォームの理解	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
2	3DEXPERIENCEプラットフォームの理解	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
3	CATIA　3DEXPERIENCEの操作方法の習得	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
4	CATIA　3DEXPERIENCEの操作方法の習得	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
5	Appsについて説明	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
6	スケッチャー　※設計変更を意識した作成	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
7	スケッチャー　※設計変更を意識した作成	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
8	スケッチャー　※複雑なスケッチを行った際の設計変更の難しさ	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
9	中間テスト	中間テストの内容を振り返り復習しておくこと。
10	パートデザイン　※フィーチャーの参照先を意識する必要性	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
11	パートデザイン　※加工工程の意識	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
12	パートデザイン　※加工工程の意識	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
13	アセンブリ―デザイン　※組み合わせ基準と加工基準について	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
14	アセンブリ―デザイン　※組み合わせ基準と加工基準について	課題となった分は次の授業までに終わらせること。 学習した内容について復習し次回授業に備えること。
15	後期試験	期末テスト内容を振り返り復習しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(実技)を中間、期末で各1回実施する。 (2)演習問題を5回実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(中間、期末)	○	○				60%
演習課題	○	○	○			40%

履修上の注意

科目名	3次元CAD検定対策 B				
科目名(英)	3dimensional CAD official certification Countermeasure A				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木下 敦子
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科 1年				
授業概要	3次元CAD利用技術者検定試験2級レベルの内容理解と検定取得を目標とする。 なお、設計業務を行う上での基礎知識の習得を目指す。				
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: −	実技: −	※ 主たる方法:○ その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				知識問題範囲の用語・意図に関して説明することができる
○	○				過去問題の正答を導き出すことができる
○	○				2Dと3DCADの相違点について説明できる
	○	○			3次元CADの操作を問題なく行える
				○	3次元CAD利用技術者検定試験2級に合格できる

テキスト・教材 参考図書: 3次元CAD公式ガイドブック 日経BP社　授業単元ごと適宜プリントを配布

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	文章を読み解き手順を参考にモデリングの説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
2	文章を読み解き手順を参考にモデリングの説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
3	表面積や体積の測定方法について説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
4	投影図を読み取りモデリングの説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
5	投影図を読み取りモデリングの説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
6	投影図を読み取りモデリングの説明・演習問題	授業範囲のテキスト内容を復習しておくこと 新しい技術等については再度確認しておくこと
7	テキスト内 前年度 前期テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
8	テキスト内 前年度 前期テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
9	テキスト内 前年度 後期テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
10	他年度過去問題 テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
11	他年度過去問題 テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
12	他年度過去問題 テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
13	他年度過去問題 テスト実施・解説	誤解答の箇所を調べ解決する能力を身に着ける
14	後期評価対象試験実施	試験内容を振り返り復習すること。
15	他年度過去問題 テスト実施・解説	本科目における学習内容を復習しておくこと

評価方法

(1)期末試験評価 (2)中間試験評価 (3)演習問題評価

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
期末試験評価	◎	○				60%
中間試験評価	◎	○				20%
演習問題試験評価	◎	○				20%

履修上の注意: 出席が10回に満たない場合は、評価対象試験受験の資格を与えない。

科目名	就職実務ＩＢ				
科目名(英)	Career Study 1B				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	稲吉　貴博
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる
○			○		基本的な面接対応ができる
	○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある
○	○				企業研究の方法を知っている
	○				学校求人を利用するための条件を知っている

テキスト・教材 参考図書: 学校支給のGCBテキスト　就職活動ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	企業講話　実践的な課題の提案　＊メールアドレスの確認と管理	講話内容のメモを取り今後の就職活動に備える
2	就職活動に関する心構え　ものづくり系の仕事とは	仕事内容を把握し自分が進みたい業界について考えておく。
3	就職活動に関する心構え　業界で必要なサービス精神	業界研究及び会社研究を行う。
4	就職活動に関する心構え　必要なスキル	業界に必要なスキルを今後どのように取得していくかスケジュールを立てる。
5	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション1	プレゼンテーション後に振り返りを行うこと。 次回プレゼンテーションに備え準備する。
6	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション2	プレゼンテーション後に振り返りを行うこと。 次回プレゼンテーションに備え準備する。
7	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション3	プレゼンテーション後に振り返りを行うこと。 次回プレゼンテーションに備え準備する。
8	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション4	プレゼンテーション後に振り返りを行うこと。 次回プレゼンテーションに備え準備する。
9	・履歴書の書き方　・メールアドレスの管理	履歴書の書き方及びメールアドレスの管理方法について振り返り学習すること。
10	・履歴書の書き方　随時添削　・メールアドレスの管理	履歴書で指摘された事項についてメモを取り認識すること。また、添削箇所の修正を行う。
11	・履歴書提出と添削	履歴書の添削箇所について修正を行う。
12	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	活動スケジュールの作成及び企業を調べ対策を行う。
13	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	活動スケジュールの作成及び企業を調べ対策を行う。
14	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	活動スケジュールの作成及び企業を調べ対策を行う。
15	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	活動スケジュールの作成及び企業を調べ対策を行う。

評価方法

(1)出席状況　(2)受講態度・意欲　(3)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
出席状況				◎		60%
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				10%

履修上の注意: 60%出席を単位付与条件とする

科目名	造形B				
科目名(英)	Architectural modeling B				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元木　昭平
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	建築模型製作の基礎を学ぶ。 【手で描く　製図演習】　前期で学修した知識と基礎技術を用い、模型作成・製図作成スキルの向上を図る。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○			住宅模型制作のもととなる設計製図を正確に描くことができる
	○	○			図面に忠実な模型を作成することができる
		○	○		スケジュール通りに制作を進め、完成させることができる
	○		○		制作した住宅模型についてプレゼンテーションすることができる

テキスト・教材 参考図書: 模型づくりからはじめる建築製図の基礎

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	パーソナルハウスのインテリア設計　課題説明	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
2	パーソナルハウスのインテリア設計　課題説明	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
3	パーソナルハウスのインテリア設計　エスキス　コンセプト	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
4	パーソナルハウスのインテリア設計　エスキス　コンセプト	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
5	パーソナルハウスのインテリア設計　スタディ模型　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
6	パーソナルハウスのインテリア設計　スタディ模型　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
7	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
8	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
9	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
10	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　図面作成	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
11	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　内観パース	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
12	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　内観パース	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
13	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　内観パース	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
14	パーソナルハウスのインテリア設計　模型作成　内観パース	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
15	パーソナルハウスのインテリア設計　仕上げ、手直し	作品制作が遅れた場合、宿題とする。
16	パーソナルハウスのインテリア設計　仕上げ、手直し	作品制作が遅れた場合、宿題とする。
17	設計製図課題　住宅模型作成①	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
18	設計製図課題　住宅模型作成①	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
19	設計製図課題　住宅模型作成②	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
20	設計製図課題　住宅模型作成②	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
21	設計製図課題　住宅模型作成③	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。

	22	設計製図課題　住宅模型作成③	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	23	設計製図課題　住宅模型作成④	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	24	設計製図課題　住宅模型作成④	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	25	設計製図課題　住宅模型作成⑤	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	26	設計製図課題　住宅模型作成⑤	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	27	設計製図課題　住宅模型作成⑥	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	28	設計製図課題　住宅模型作成⑥	授業で習ったスキルは、確実に習得すること。
	29	設計製図課題　住宅模型作成⑦	課外時間を使い、作品が完了するようにすること。
	30	設計製図課題　住宅模型作成⑦	課外時間を使い、作品が完了するようにすること。

評価方法

(1)授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。
(2)プレゼンテーションスキル　(3)スケジュール管理
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
作品評価		○	○			60%
プレゼンテーションスキル		○		○		20%
スケジュール管理				○		20%

履修上の注意　期限までに完成するように最終提出期限を意識したスケジュール管理を行うこと。

→ 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。

→ 任意で記入してください。

→ 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。

→ 実施される年度、時期（前期・後期・通年）を記入してください。実務家教員の担当科目には「〇」を記入してください。

→ 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。

→ 授業科目の概要を記入してください。（カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など）

→ 該当する授業形式に〇を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に〇、その他に△を記入してください。（職業実践専門課程の

→ 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、〇を記入してください。

→ 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし

→ 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
同様のテーマを複数にわたり扱う場合は、「〇〇〇〇①」「〇〇〇〇②」のように記載するのではなく、

例えば、「〇〇〇〇①　△△△、×××」「〇〇〇〇②　□□□、◇◇◇」のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記入してください。

授業の性格上、回ごとに分けることが困難な場合でも、授業内容の大まかな順序が分かるよう、可能な範囲で具体的に記入してください。

複数教員で分担して担当する場合は、該当回の担当教員名を括弧書きで記入してください。

→ 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
学習目標（到達目標）で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または〇を記入してください。

→ 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。

様式4（3）と一致させる）

」と記入してください。

科目名	機械製図				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木下 敦子
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	製図総則(JIS Z 8310-1984)及び機械製図の緒規格の基本について主に学習する。 正しい図面を描くための基礎的な知識を身につける				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○			正確な図面を描ける
	○	○			早く、美しく、見やすい図面が描ける
	○	○	○		スケジュール管理のもと、期限までに作図を完成させることができる

テキスト・教材 参考図書	やさしい機械図面の見方・描き方

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	全体概要説明	
2	線と文字　要件・種類についての説明	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
3	製図で使われる投影法　投影の仕方、投影法、注意点についての説明	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
4	製図機器と製図器具について　ドラフタ・平行定規について	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
5	立体的に表す方法について　概要説明、線tえの種類と書き方	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
6	図示法について　主投影図の選び方、数の決め方、平面について	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
7	第三角法について　概要説明	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
8	第三角法トレーニング	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
9	第三角法トレーニング	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
10	補助投影図トレーニング　平面より立面図を作成	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
11	補助投影図トレーニング　平面図から立面図を描く	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
12	補助投影図トレーニング　平面図から立面図を描く	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
13	部分投影法・局部投影図について　補助投影図、部分投影法の説明	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
14	部分投影法，局部投影図トレーニング　局部投影図と部分拡大図	課題となった分は次の授業までに終わらせること。
15	前期復習	授業後、繰返し練習をすること。

評価方法

①製図課題(毎回提出)　②課題評価(正確性)　③課題提出状況(スケジュール管理)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題・レポート(製図)	○	○				40%
正確性(図面)		○				40%
スケジュール管理				○		20%

履修上の注意	学習した内容を復習することが機械製図の理解に繋がりますので心がけて下さい。 課題評価が重要となりますので課題に取組み必ず期限までに提出するよう心がけて下さい。

科目名	プロダクトデザイン実習ＩＢ				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元木昭平
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	博多駅周辺の公共物リサーチ、リサーチしたモノに関するマップ作成、市場調査(アンケート、グループインタビュー)を通じて改善点を掘り起こしたうえでコンセプト立案、最終的な提案と発表を行う。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					プロダクトデザインの基本的概念を説明することができる
○	○				リサーチに基づいた確固たるコンセプトを立案することができる
○	○	○			リサーチしたデータをもとに商品企画(テーマ・コンセプト・ネーミング等)をまとめることができる
	○		○		商品企画案を問題なくプレゼンテーションすることができる

テキスト・教材 参考図書	教科書『プロダクトデザイン』

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1 2	概要説明～リサーチ(現場の視察※駅周辺) 設置物、環境(空間)、施工、作り、人の動き(動線)	調査結果は、整理して資料化すること。
3 4	ラフ案検討・提案したい公共物のアイデアスケッチ(1) 改善点・改良点の洗い出しなど	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い アイデア出しを行う。
5 6	ラフ案検討・提案したい公共物のアイデアスケッチ(2) 動作のしくみのアイデア出しなど	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い アイデア出しを行う。
7 8	ラフ案検討・提案したい公共物のアイデアスケッチ(3) 実際的な素材の検討(生産を考慮)	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い アイデア出しを行う。次週、アイデアスケッチを 完成出来るように作業を行う。
9 10	ラフ案検討・提案したい公共物のアイデアスケッチ(4) 実際的な素材の検討(生産を考慮) 模型製作時の素材検討も含めてブラッシュアップする	アイデアスケッチが完成出来なかった場合は 宿題として完成させる。
11 12	ビジュアル化・スケッチ(マーカー処理)(1) いくつかのアングルで表現	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い スケッチ作成を行う。次週、マーカースケッチを 完成出来るように作業を行う。
13 14	ビジュアル化・スケッチ(マーカー処理)(2) いくつかのアングルで表現	マーカースケッチが完成出来なかった場合は 宿題として完成させる。
15 16	しくみ図(立面図)制作、正面・側面・平面図の制作	図面制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 完成させる。
17 18	模型製作(1) ケント紙・スチレンボード・スタイロフォーム・クレイを使用	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 作業を行う。
19 20	模型製作(2) ケント紙・スチレンボード・スタイロフォーム・クレイを使用	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 作業を行う。
21 22	模型製作(3) ケント紙・スチレンボード・スタイロフォーム・クレイを使用	作品制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 作業を行い、完成させる。
23 24	企画書作成(1)　企画シートフォーマットに則して制作 コンセプト・テーマ・ネーミング(ロゴ制作)・説明文考案	企画書制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 作業を行う。
25 26	企画書作成(2)　企画シートフォーマットに則して制作 コンセプト・テーマ・ネーミング(ロゴ制作)・説明文考案	企画書制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 作業を行う。
27 28	企画書作成(3)　企画シートフォーマットに則して制作 コンセプト・テーマ・ネーミング(ロゴ制作)・説明文考案	企画書制作が遅れた場合、授業外の時間を使い 完成させる。
29 30	プレゼンテーション スケッチや模型を提示しながらのプレゼンテーション実施	発表資料が遅れた場合、減点とする。

評価方法

(1)授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。
(2)プレゼンテーションスキル

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題作品		○	○			60%
課題提出状況			○	○		20%
プレゼンテーション		○		○		20%

履修上の注意	各プロセスをしっかり理解すること。

科目名	Photoshop / Illustrator　ＩＢ				
科目名(英)	Photoshop / Illustrator ＩＢ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高山　裕明
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	デザイン会社にて 商品開発デザイン担当
	ものづくり科　1年				
授業概要	設計開発デザインのスペシャリストとして活躍する専門性として、自分の考えを伝え、表現できること(プレゼンテーション能力)が挙げられる。プレゼンを行う際、読みやすく見やすい資料をデザインする必要があり、Photoshop / Illustrator はその重要なツールソフトである。後期は特に Photoshop の基本操作を学ぶとともに、作品パネルや、ポートフォリオ制作技術の習得を目指す。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				Photoshopと Illustratoの個々の特徴について学び、作業の目的に応じた選択ができる。
	○	○			プレゼンテーション資料作成に必要なPhotoshopの基本操作を学び、資料作成ができる。
	○	○			クリエイター能力認定試験(スタンダード)に必要な機能を学び、適切に解答できる処理能力を身につける

テキスト・教材 参考図書

参考図書 『世界一わかりやすいIllustrator＆Photoshop 操作とデザインの教科書』
『伝わるデザインの基本』 ほか

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	Illustrator & Photoshop の基本	
2	Photoshop 基本操作　レイヤーの操作と色調補正	授業で習った内容は、復習し習得すること
3	Photoshop 基本操作　選択範囲の作成	授業で習った内容は、復習し習得すること
4	Photoshop 基本操作　色の設定とペイントの操作	授業で習った内容は、復習し習得すること
5	Photoshop 基本操作　レイヤーマスクを使う	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
6	確認テスト／Photoshop 基本操作　文字、パス、シェイプ	授業で習った内容は、復習し習得すること
7	Photoshop 基本操作　文字、パス、シェイプ	授業で習った内容は、復習し習得すること
8	Photoshop 基本操作　画像の修正・加工	授業で習った内容は、復習し習得すること
9	Photoshop 基本操作　フィルターとレイヤースタイル	授業で習った内容は、復習し習得すること
10	Photoshop 基本操作　Illustrator & Photoshop の連携	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	確認テスト／レンダリング画像を加工	授業で習った内容は、復習し習得すること
12	Illustrator と Photoshop を使ったパネル制作	授業で習った内容は、復習し習得すること
13	Illustrator と Photoshop を使った作品集制作	授業で習った内容は、復習し習得すること
14	検定説明と模擬問題案内	授業で習った内容は、復習し習得すること
15	検定模擬問題解説	授業で習った内容は、復習し習得すること

評価方法

(1)授業の中で小テスト(技能テスト)を2回実施する。 (2)各章終了時に課題提出を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
小テスト		○	◎			80%
課題提出		◎		○		20%

履修上の注意

授業中の指示を聞き落とさないこと。課題は指示された作業の正確さと、期限内提出を評価する。

科目名	デザイン概論				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	高山　裕明
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	デザイナー・エンジニアを目指す者が、デザイン・設計を行う上で必要な教養の基礎として、デザインの概念・デザインの領域、デザイン史、アイデア発想法、知的財産、プレゼンテーション等の知識を身につける。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				各時代の代表的なデザイナーと作品をデザイン運動や社会変化と関連付けて説明できる
○	○				デザイン技術について説明できる(発想法の分類、重要キーワード)
○	○				企業の商品開発プロセスについて説明できる(マネジメントのプロセス・知的財産権の問題)
○	○				プレゼンテーションの手順と技術について説明できる

テキスト・教材 参考図書	『デザイン概論』(飯森正麻、白石和也共著) 『プロダクトデザイン～商品開発に関わるすべての人へ』ほか

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	デザインとは何か	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
2	デザインの歴史	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
3	デザイナーと作品	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
4	アイデア抽出の方法　アイデア発想法	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
5	道具と素材／社会とデザイン	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
6	デザインの領域　デザイン団体、デザイン分野、スペースデザイン　パッケージデザイン	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
7	プレゼンテーション	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。
8	復習、試験対策	授業で学習した部分は配布資料を利用して必ず復習しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎					80%
小テスト	○					10%
宿題・レポート	○					10%

履修上の注意	専門用語を憶えるだけではなく、「デザイン」について考える授業です。 配布資料より期末試験を出題します。ファイリングし毎時間持って来るように。

科目名	GCB Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各担任
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	全学科対象・1学年				
授業概要	GCB Ⅰ で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB Ⅱ ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△

学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○		○		考えることの大切さを知る
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る
		○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。
		○		○		行動する大切さに気づく。

テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ テキスト

授業計画	回数	授業項目・内容	授業外学修指示
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～	
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～	
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える	
	5	伝える力を学ぶ(2) 「グループコミュケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～	
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～	
	8	GCB Ⅱ を受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%

履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする

科目名	数学ゼミB				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田麻美
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	ものづくり科　1年				
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける
○	○				文字式を利用した応用問題が解ける
○	○				連立方程式の基本問題が解ける
○	○				連立方程式の応用問題が解ける

テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント

授業	回数	授業項目・内容	授業外学修指示
	1	【演習問題】 式の計算　単項式と多項式	解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。
	2	【演習問題】 文字式の利用　偶数と奇数の和	
	3	【演習問題】 文字式の利用　等式の変形	
	4	【演習問題】 文字式の利用　図形の関係式の変形	
	5	【演習問題】 連立方程式　加減法と代入法を用いた解き方	
	6	【演習問題】 連立方程式　いろいろな連立方程式の解き方	
	7	【演習問題】 連立方程式　連立方程式の利用・身近な問題を解く	
	8	【演習問題】 総合復習　まとめ	

評価方法

(1)出席状況　(2)受講態度・意欲　(3)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
出席状況				◎		60%
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				10%

履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする